

第 7 回 JCHO 千葉病院地域協議会 議事録

出席者 (敬称略) : 外部委員 富田、北田、和田、森、尾崎
病 院 室谷、堀、中村、進藤、吉良、河野

欠 席 : 外部委員 海宝、光永、積田、
病 院 なし

1. 院長挨拶 (室谷院長)

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。今回で地域協議会も第 7 回となりました。当院の現状についてご報告いたしますが、7 : 1 病床 (60 床) 10 : 1 病床 (50 床) 地域包括ケア病床 (45 床) で運用して参りましたが、8 月 1 日より HCU を開設いたしました。病床数は 4 床でございますが、HCU を開設することにより重症患者さんをきちっと診ていきたいという想いと、これから若い先生方に当院に来ていただくためにも HCU が必要と考え、開設いたし、計 159 床にて運用しております。

また、全国的に外来患者数が減少しており、JCHO57 病院も同様であります。総務省の発表によると、これまで高齢化率が 26.7% で推移していたものが、今年 9 月に発表されたデータによると 27.7% となり、更に 1% 増加しております。このような状況により、医療の形態も変わっていかねばいけないし、本当の意味での病気というよりは、生活をトータルで診て行くようシフトしていかねばならない中で、訪問看護や安心ケアセンターが非常に大事な役割を担っております。このような現状の中、地域協議会を年に 2 回開催させていただき、皆様からのご意見をいただいて、それを医療現場にフィードバックして行ければと考えております。

2. 委員紹介 (吉良事務長)

事務局より、委員の紹介を行う。(変更者含む)

3. 病院の運営状況について (吉良事務長)

当院の運営状況について、事務局より説明。

- ① 平成 27 年度、平成 28 年度収支状況
- ② 1 日平均入院・外来患者数

- ③ 新入院・新外来患者数
- ④ 紹介率、逆紹介率
- ⑤ 地域包括ケア病棟 1 日平均入院患者数・1 日平均透析件数

4. 訪問看護実施状況について（進藤総看護師長）

- ① 訪問看護実施件数について
- ② 対象患者について（患者数、平均年齢等）

5. HCUの運営状況について（進藤総看護師長）

7月はブレで運用を始め延べ患者数 49 名、8月から本格稼働し延べ患者数 43 名（1 日平均患者数 1.35 名）、9月は延べ患者数 48 名で（1 日平均 1.6 名）となっております。HCUは 4 床で稼働しており、スタッフは看護師長をはじめ 8 名の看護師で運用している。また、患者については、手術後の患者が 54%で 1 番多く、次に循環器系の患者が 33%となっている。また、8月 は当院の特色である透析患者が 50%を占めておりました。

6. その他、質疑・意見交換等

（病院） 当協議会は、この地域を活性化させ、医療難民を減らさなければならない。また、当院が地域包括ケア病棟を立ち上げた時点では、近隣に地域包括ケア病棟が少なかったと思われます。しかしながら、近年、地域包括ケア病棟が増加しているように思いますが、千葉市の方でデータ等はお持ちでしょうか。

（外部委員） 本日、データを持参していない。

（外部委員） 現在も、いくつかの医療機関で設置を予定していると聞いています。

（病院） 千葉市、千葉県の方で全体像を見て、地域包括ケア病棟等の運用状況について把握していただくと助かる。

（外部委員） JCHO千葉病院の地域包括ケア病棟について、外部からの受け入れ要請はありますか。

（病院） まだ、少ないです。

（外部委員） 在宅からの患者等も受け入れていただけますか。

（病院） 紹介いただければ、積極的に受け入れて行きたいと考えている。

（外部委員） 先日、当施設の訪問看護の患者（かなり重症）を地域包括ケア病棟で受け入れていただきました。依頼理由としては、通常の老健では対応できない気管切開等があり、吸引も 24 時間必要ですし、老健（JCHOではないが）に入所すると体中アザだらけになって帰ってきたことがあり、老健のショートステイは家族が嫌だと言っており、考え抜いた挙句、当院を紹介した結果とても温かく、優しく受け入れてくださり、家族はすごく安心したとっております。また、リハビリも行っていただき、お風呂も入れていただき、感動したとおっしゃっていました。このような機会が増えると嬉しく思います。

患者家族は、預け先が医療者であることに安心している。JCHO千葉病院の地域包括ケア病棟

は、他院の地域包括ケア病棟に比べるとリハビリとかADLの向上とか、入院中にADLが向上し帰ってこられる。ここが、JCHO千葉病院地域包括ケア病棟の強みだと考えており、アピールして良いと思います。

他院では、あまりないと思われませんが、JCHOは第1線（急性期等）の先生が地域包括ケア病棟を担当していることが良いと思います。

（病院） ありがたいご意見ありがとうございます。当院では、各科の医師が関わっており、受持ちそのまま担当している。あんしんケアセンター等では、困っていること等ございますか。

（外部委員） 最近退院調整の相談をお寄せいただくが、総合事業が開始になったことによって要介護なのか要支援なのかどちらか分からない方へのサービス調整が難しい。（認定がおりていない場合）退院調整の場合の多くはヘルパーさんが必要という場合が多くありますが、総合事業に参入している事業者が非常に少なく1週間経っても返事をいただけない場合がざらにあります。こういった場合に、先程お話のあった地域包括ケア病棟で自宅に帰りやすい状態にさせていただいてから調整という感じにさせていただけると、あんしんケアセンターとしても退院調整がしやすいと思います。また、最近独居の方が増えていまして、親族の方の介入が非常に薄いというケース多く、その場合、土日等時間外での問い合わせ多い。しかしながら、時間外にJCHO千葉病院に対応いただき助かったケースがあった。

（病院） 千葉市でも高齢者の独居が増加していると思われませんが、自治体等で何か対策を行っておりますか。

（外部委員） 船橋市では、ひまわりネットワーク制度を取り入れており、救急隊等が到着し患者の意識がなかった場合等は、冷蔵庫を開けるとひまわりシートが入っており、氏名・生年月日・家族連絡先・かかりつけ医療機関などが分かるようになっている。

（外部委員） 救急連絡先を冷蔵庫に入れるという制度は、千葉市でも美浜区では浸透していますが、他の行政区では浸透していないので、市全体として今後どうして行くか検討が必要だと考えている。

（外部委員） 訪問看護ステーションでは、連絡先等を把握しているが連絡しても電話に出ないことが多々あり、救急隊を要請し搬送病院を探してもらえない状況もある。

（病院） 当院では、週末は千葉大学より若手の医師に応援いただき勤務していただいています。かかりつけ患者以外も積極的に受け入れるよう指導しておりますので、是非とも当院を利用いただければと考えております。また、老健の方は何か問題ありますか。

（病院） 先ほど地域包括ケア病棟の話ができましたけれども、老健はスタッフの人数などにより医療的には手薄になってしまいます。また、介護認定が厳しくなっており、要介護から要支援となった場合には施設が利用できないなど、様々な問題が生じてきます。自治体等では対策を考えおりますか。

（外部委員） 制度上、変更はありません。以前は制度的に不安定な部分があったかと思われま。また、今回の診療報酬・介護報酬改定において変更が生じるかも知れません。

（病院） 訪問看護ステーションは、職員何名で運用されていますか。

(外部委員) 常勤 3 人、非常勤 1 名です。また、訪問件数としては 260～280 件、利用者数は 40～50 名を推移しており、1 名のスタッフで最低 4 件はまわるようにしている。

7. 閉会の挨拶 (室谷院長)

閉会の時間となりましたが、これから地域の人口構成も変わってきますし、少しでも良いものを目指して病院は病院の役割を行いつつ、どんな患者さんを受け入れられるのか、地域包括ケア病棟の利用の在り方など、様々な問題がありますが、各施設で頑張れる事、お互いをお願いしたい事など、地域全体を巻き込まないと地域の医療レベルが上がってこないと思います。年に 2 回の会議で、これがどれぐらい役に立つかという中々難しい問題もあるかと思いますが、会議を継続していくことで顔の見える関係になり、お互い連絡が取り合える環境を構築していくことが重要だと考えております。つきましては、第 8 回地域協議会は来年 3 月頃を予定しておりますので、引き続きご協力をお願い申し上げます。